

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500257		
法人名	合同会社 アウルの森		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム ひだまりの家		
所在地	長崎県大村市杭出津町2丁目1-7		
自己評価作成日	令和4年1月7日	外部評価結果確定日	令和4年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりの生活歴を大切に、起床時間から就寝時間もそれぞれで、飲酒、外出など、できる範囲でその人らしく生き生きと生活していただきたいと、【ゆったり、楽しく、自由に、ありのままに】の理念に沿って支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvoCd=4290500257-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年2月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆったり、楽しく、自由に、ありのままに」の理念は、その人らしく何らかの役割や楽しみをもって、生き生きと生活することを尊重した支援をします、という姿勢を表したものであることを実感する。その日の天候や体調、要望などで一日のスケジュールを組み立て、それぞれが役割をもって家事をしたり出掛れたりしている。週末には施設内でのカラオケを楽しみ、主治医や家族の許可のもと飲酒もたしなんでもらうなどしている。行事ではない、日常の外出も大事にしており、コロナ禍ではあるが工夫して途切れることのないようしている。防災訓練に近隣住民の参加があり、入居者や避難手順等把握してもらうなど特筆すべき事項もあり、自治会参加、運営推進会議を活用した地域との積極的な関わりがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のくゆったり、楽しく、自由に、ありのままに)を職員の目の入る場所に掲示し、月1回の職員会議で理念に基づいて実践できているか等振り返る時間を作っている。	毎月の職員会議でチェック表による自己評価を行いながら、理念に基づいて実践できているか振り返る時間を作り、お互いが注意しあえる環境を作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事には職員と参加できそうな入居者が一緒に参加したり、近所の学童施設とレクリエーションや地域の資源物回収に協力する等、交流を図っている。	地域住民の一員として自治会に加入し、回覧版から情報を得たり、町内の清掃活動を行っている。年末の夜警には入居者も参加している。また廃品回収用に入居者が段ボールやアルミ缶の整理を、率先して手伝ってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大村市が行っている「認知症ほっとライン事業」にも参画し、全職員が地域の人々の相談に対応できるよう、内部研修をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、施設内行事等の報告、話し合いをおこない、その際のご意見を、サービス向上に活かしている。	運営推進会議への出席者は多く、その中で多様な意見が出され、活発な意見交換がなされている。各立場からの意見をサービスの向上につなげていきたいという、グループホームの真摯な姿勢から構築されてきたものと思われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の長寿介護課の担当者には、運営推進会議議事録を提出し実情を伝えながら、都度相談に応じていただいている。	運営推進会議での運営面報告を基にして、グループホームの取り組み・現状を十分理解してもらっており、様々な情報交換や行政への提出書類等アドバイス・サポートしてもらい、良好な関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を正しく理解する為に内部研修を行ったり、外部研修に参加したりして拘束の適正化に努めている。運営推進会議でも身体拘束適正化委員会としての報告もおこなっている。	身体拘束をしないケアについて、常に振り返りを実施している。「接遇・マナーの自己評価シート」と「虐待のチェックリスト」を作成し、全職員が自己評価を実施している。このチェック表に基づいて、個人指導を行うなどして理解とスキルアップできるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外・内部研修にて高齢者虐待防止関連法について学び、スピーチロックも含め、虐待に当たらないかの検討や防止策など職員会議で話し合いながら、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度(保佐人)を利用している入居者は2名いるが、日常生活自立支援事業や成年後見人制度を理解出来ない職員もいるため、今後の課題と考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明をおこない、納得いただいた上で契約書及び同意書の記入をお願いしている。また説明の際は、ご家族にわかりやすい言葉で理解しやすいように伝える事を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議(コロナ禍においては紙面での報告・意見交換)では、ご家族代表にも、ご意見をいただいたり、面会時、対話での聞き取りをおこなっている。また、ご家族への新聞(写真入り)を年4～5回発行し郵送している。	運営推進会議での活発な意見交換があり、要望によりお誕生会を動画配信したり、大雨警報の際には情報があればお手伝いもできます、との意見からラインアプリを使った情報配信をするようになったなど、家族・入居者から意見を出しやすい関係が作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催職員の意見や提案を聞く機会としている。意見や提案は検討し、必要であると判断されれば、管理者から代表へ伝達する形で対応してもらっている。	日常的に職員は管理者に意見を言いやすく、また管理者は代表に現場の声を伝えやすい環境である。手当の増額など職員の要望によりなされ、その評価により、さらにサービス向上につながるなど職員の支援業務について理解・サポートされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や功績、勤務状況などは管理者が代表者に伝え、また、各職員もそれぞれ自己評価し、それらを管理者のみではなく、相当の立場の職員とともに再評価し代表者に報告し各自が向上心を持って働けるよう就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を通じてケアの向上を図り、各職員のレベルに合った外部研修にて理解が不十分な職員に対しては個人指導を実施し、働きながら資格取得ができるよう勤務体制などサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において、外部研修はほぼオンラインセミナーになっていて、同業者と交流する機会も相互訪問等の活動も今は殆ど出ていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の不安や思いが一つでも多く聞き出され、環境を整えられるように、受容・共感・傾聴に心掛けながら、コミュニケーションを図るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事や思いと一緒に考え、解決へと向かうことが出来るよう、ご意見を伺いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される」前に、ご本人、ご家族、管理者とケアマネージャーが話し合いをおこない、必要なサービスを説明の上、最も適したサービスの利用を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ペース(できる事・できない事)の中で率先して行われることに対し受容・共感し、それぞれの身体機能、精神状態や思いを汲みとり、後押しできるようにお互いが支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの感染状況を見ながら、場所・時間等を考慮し、ご家族等の面会時に情報交換をおこない共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店に出かけ、店主との会話を楽しんでいただいたり、誕生日と一緒に飲食店に出掛けお祝いしたり、昼夜問わず支援している。	訪問者には自宅を同じように、湯茶の接待がある。入居後も日常支援の中から情報を集めるよう工夫している。また、近隣の美容室、理容室を利用したり、男子会、女子会と称して飲食店に出かけるなど、新たな馴染みの関係を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者それぞれの性格や相性を考慮し、その時々に応じて、席替えを試みたり、職員が介入しやすいようにしている。入居者同士がお互いの昔話をしてみたりする場面が見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り後に法要や初盆参りで、ご家族と思い出話をしたり、その後もご家族の近況を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、会話の中で、本人の希望、意向を聞き取り、困難な場合は、ご家族と職員とで話し合い、本人本位に検討している。	職員は日々のケアの中で、細かく入居者を観察し、表情や発声からそのときの希望や体調を把握している。小人数の集まりのときにでた話から普段はでない要望をくみとり、食事の時の着席順を変更した例もあった。個々の要望については携帯電話のアプリで職員に周知し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、実態把握票により確認し、入居されてからは、本人・ご家族より聞き取りをおこなう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態や有する能力等の現状は職員間で共有し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に本人本位の生活が出来るよう関係者で話し合い現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランは3か月で見直しをしており、そのときに家族にも報告し、要望を聞いている。家族の面会時間に合わせて昼寝の時間を調節し、結果として生活のリズムを適正に近づけることに成功した例もあった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の充実と情報共有がしやすいように一覧表を作っており、介護計画を実践できているか、できなくなっている事はないか等、見直しの根拠がみえるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	後見人制度や安心センターなどにも介入していただいたりして、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容室利用やこどもデイサービスとの交流をはじめ、買い物、行事参加など一人ひとりが心身の力を発揮しながら楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族が信頼しているかかりつけ医での診察を継続することで、安心していただいている。都度、事業所としての関係も築けるよう努めている。	医療機関の受診は家族か職員で対応し、通院できない場合は往診がある他、大村市の在宅医療サポートセンターにも相談ができる。現在も現状を把握するため、薬の処方だけではなく、できるだけ受診するようにしている。かかりつけ医によって緊急時の対応が違うが、個別に対応マニュアルを作成して常備し、どの職員も迷わず連絡などを行えるように準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を2名配置し、いつもとは違う気づきを介護職員は伝え相談することができ、看護職員が適切な受診や往診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、速やかに情報を伝えることが出来るように、入院時情報提供書を作成している。また、退院についても、スムーズに行えるよう、病院関係者との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意志とご家族の意向を入所契約時にお伺いし、1年ごと、または状態の変化に応じて再確認している。かかりつけ医も含め施設ですること十分に説明しながら方針を共有し支援に取り組んでいる。	看取りの希望については、入居時と誕生日に確認する他、終末期が来たら状態変化の都度確認をしている。看護師や経験のある職員で不慣れな職員をサポートし、実際の対応や亡くなった後の手続き支援など万全の準備を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応、夜勤時の連絡先の周知も含め、月1回の勉強会を設けている。職員の実践力にもムラがあるので、看護師が個別指導もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災・水害・地震を想定した入居者様の避難訓練を年6回、職員のみで初動動作(連絡や声掛け、動きなど)を年6回でおこなっている。自動消火ガスコンロ・防災カーテンなど使用し、夜勤帯では火元のチェック表を作成し、未然に防ぐための対策をしている。	定期的な避難訓練で、火災だけではなく水害や地震など自然災害への対策も行っている。特に火災については近隣で放火があったこともあり、建物周囲に燃えやすいものを置かない、防犯カメラを設置して不審者の立入りをなくすなど、施設内外で対策を行っている。避難の際には近隣住民からの助けも得られるような関係ができています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇教育委員会を設置し言葉かけやスピーチロックについて内部研修をおこなっている。また、毎月のスタッフ会議では接遇についての自己評価をおこない振り返る時間を作り、互いに注意し合える環境づくりに努めている。	個室に入る時のノックや声掛け、時間帯など個別事情に応じて細かく配慮を行っている。タブレットでの面会時は要望がなければ職員は同席しないようにしている。現在懸念されるのは職員や入居者にコロナ感染者が出た場合の対応である。	万一、関係者に感染者が出た時の対応について、シミュレーションを作成し、情報をどこまで公開するかの指針を作成され、家族の意見を取り入れて万全の対策をされるよう期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、対話を多く持ち、思いや希望を汲み取りやすい環境づくりをおこない、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にとらわれず、運営理念である「ゆったり、楽しく、自由に、ありのままに」をもとにできる範囲で起床から就寝までをお一人おひとりのペース・希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて、町内の理美容室へお連れし、ヘアカット、パーマ、ヘアカラーを楽しまれたり、衣類購入の際は、ご自分で選べない方にも好きな色をお聞きしたりしておしゃれを楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍において、職員と一緒に食事をすることは出来ていないが、簡単な準備や後片付けはお願いしている。以前、飲酒をされた方々には、ご家族や主治医の許可のもと、提供し楽しんでいただいている。	食事のメニューは要望があった場合や、スケジュールが変更になったら臨機応変に変更し、その時に楽しめるよう職員で工夫している。天気の良い日におにぎりを作って外で食べる、正月のおせち料理にお酒をつけるなど行事と併せての楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の栄養摂取や水分摂取量を観察し、不足しがちな時は嗜好品や栄養補助食品・飲料水等を提供し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人お一人の状況に合わせたケアセットを使用し口腔ケアをおこなっている。また必要に応じて歯科受診や訪問にて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体介護の重度化により、オムツ(パット)使用の方も増えつつあるが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄支援については昼と夜、外出時に使用する種類を変更するなど、入居者の状態と行動に合わせて適切に変えている。なるべく現状を維持し、入居者の安心につながるような支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行いながら、運動や水分摂取、必要時はかかりつけ医への相談をおこないながら、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴を基本とし、曜日や時間を決めずに入居者様のその日の状況に応じて入浴・清拭に努めている。冬場は保湿クリームを塗布したりして皮膚の乾燥予防に努めている。	曜日や時間を固定せず、入居者それぞれの生活リズムと希望に合わせて入浴を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は共有スペースに設置している大きなソファでくつろいでもらう事ができ、居室は入居者様の生活習慣に合わせ、寝具をベッドから布団に変えたり、飲酒をされていた方には主治医やご家族と相談のうえ、以前と同じアルコール類を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の疾患や処方薬を把握し、いつでも確認できるよう個人ファイルに保管している。服薬支援に必要な目的、副作用、用量等は常に内部研修をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の生活習慣を大切に、晩酌の継続や家事等できることを役割としておこなっていただいたり、外気浴・お家で外食や懐メロ・動物の動画などを一緒に観賞したりして気分転換等の支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外出回数は減少しているものの人混みを避けドライブしたり、感染対策が万全なお店で食事をしていただいたり、近隣の理美容室を利用したり、ご自宅が近い方は時々ご自宅にお連れしたりして支援している。	最近は近隣のお寺の境内への散歩や、人の少ない公園へのドライブで屋外に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望があれば自身で持っていただけるよう支援し、買い物などの外出時も本人様に支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にすぐ利用していただい、ゆっくり会話がしやすいように環境も考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、季節感のある明るい雰囲気を作り居心地の良い空間を提供できるよう工夫している。	共用スペースは入居者に飾り付けを作成してもらい、季節感をだしている。ゆっくりとテレビをみたり、職員の手伝いをしたりと好きなように過ごしてもらい、入居者が自然と集まってくる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、大きなソファや畳コーナー、テーブルセットがあり気の合った方々が思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、ご自宅にいらっしゃるような雰囲気作りをお願いしており、使い慣れた椅子やタンスの他にも壁飾り・写真、聴きなれたCDなどをお持ちしていただき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は冷蔵庫、こたつ、電子レンジ等使いたいものを置き、自由にお茶を飲んだり軽食をとったりできるようにしている。できる範囲で職員と一緒に掃除を行って、入居者にとって居心地のいい馴染み深い場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を大切に、トイレがわかりやすいように目印をしたり、洗濯物干しができる方には段取りをおこなったり、食事の際に使用するティッシュペーパーや卓上ゴミ箱は、手の届く棚に置いてあり、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500257		
法人名	合同会社 アウルの森		
事業所名	グループホームひだまりの家(2ユニットめ)		
所在地	長崎県大村市杭出津2丁目1-7		
自己評価作成日	令和4年1月7日	外部評価結果確定日	令和4年3月9日

「ゆったり、楽しく、自由に、ありのままに」の理念に近づけるように、各入居者様がお互いに助け合い、日々暮らして頂けるよう支援しています。コロナ禍ではありますが、感染者数の情報をみながらの個室での外食、ドライブや買い物などの外出支援、施設内では各々自身ができる役割を持って家事をして頂き、週に一度のカラオケ、二週に一度の移動パン屋購入など楽しまれています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyo_detail_022_kani=true&JgyosyoCd=4290500257-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年2月4日		

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者にその方なりの生活を送って頂けるよう、楽しみも含めた生活全般に「ゆったり、楽しく自由に、ありのままに」の理念を掲げ、管理者と職員は実践に繋げ支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と接し、顔なじみになってもらい、施設に少しでも関心を持ってもらえる様、入居者含め、お店などの利用、町内の行事等には参加し、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習の受け入れ態勢を整えようとしていましたが、コロナ禍の影響もあり、学校側との話し合いの末、行っていない。9月より大村市認知症ホットライン事業に参画し、地域の方の相談等の窓口を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍が続き、昨年同様2ヶ月に1度書面にて運営推進会議を行っています。各関係者の方々にご意見などを頂き、サービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍で昨年に引き続き書面での運営推進会議の資料を見て頂き、事業所での取り組みなどを報告し、感想やご意見、助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	二階建ての施設の為、階段からの転落防止と窓の開放の制限を身体拘束委員を中心にを行い、本人及びご家族にご理解を得て、書面にて身体拘束の同意を頂き、2ヶ月に一度の見直しと運営推進会議で報告、検討を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の理解を深める為、接遇委員が中心となり、職員全員が毎月の振り返りを行い、内部研修や外部(WEB)の研修も受けながら、身体拘束や虐待防止への周知徹底に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に市の権利擁護事業、成年後見人制度を活用している方がおられ、制度について深く理解できていない職員も多い為、今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者やケアマネージャーが説明を行い、契約を交わしている。入居時、退去時お互いが納得いくよう話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議へご家族にも参加して頂き意見や提案を伺いそれらを運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議の際に全職員で話し合い、管理者へ報告し、代表へ伝達する形で対応してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の実情を把握し、勤務についての配慮がある。また、職員の資格取得に向けて支援を行い、研修の機会もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を通してのケアの向上を図り、各職員のレベルに合った外部研修への参加の機会を設けている。また、働きながら資格取得に向けて受講できるよう勤務体制作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアセミナーやケアフォーラムなどは、今年度は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が思った事を話せる環境作りや表情を観察し、職員からの言葉掛けに対する反応等せ気持ちを汲み取り本人が安心して生活して頂けるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望や思いも入居前の面談で確認し、適切なサービスや対応が出来るように支援している。まだ不安な面などにも耳を傾け信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に管理者やケアマネージャーにより可能な限り詳細な情報を聞き取り、現在その方に必要な支援の検討を行っている。場合によっては他事業をお勧めし、利用に繋げる対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が現在有している能力を活用し、入居者様が主体な生活となるよう心掛けている。また、入居者の生活において不安な場合には、言葉かけながら不安を取り除き、支えあいながら生活出来る様心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際には近況報告しつつ情報の共有をしながら支援している。雰囲気や環境作りを心がけている。また、必要な物品を購入して頂くなど入居者様を支えていく関係を気づいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内会の清掃活動等の参加、馴染みの理髪店の利用等ができる様な支援を心掛けている。またコロナ禍ではあるが、感染対策に十分な配慮をしながら、ご家族様、知人等気を遣わず気軽に来所して頂けるような温かく家庭的な雰囲気を作れるよう努力している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置や本人の性格等を配慮しながら、場合によっては職員が介入できるようにしている。イベントや様々なレクリエーション等でも、入居者同士が関わり合いが持てるような工夫や言葉掛けをしながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の影響もあり、ご家族と連絡を取り様子を伺ったりしている。荷物の預かりの相談には、できる限りの対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと関われる時間を持って、その時々 の思いを聞けるように努めている。得た情報は職員間で共有し、思いを伝えるのが困難な方に対しては様子や表情から取り込めるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態把握表からの情報や本人、ご家族の話 を基にそれまでの生活に近づけられるよう職員間で情報共有に努め、日々の会話の中から得た情報は気づきとして把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の一日の様子、心身状態は日常生活記録に記録し、急変時は施設内Nsに連絡する体制もあり、他職員も無料通話アプリの使用で情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に担当職員によるアセスメント・モニタリングの検討会議を月に1回行い、その方に合ったケアの改良を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録と細かい連絡は、ホーム日誌や日常生活生活記録、受診ファイル等で情報共有している。緊急時等の連絡は、無料通話アプリの使用で、情報共有をしている。各種委員会からの働きかけでも、より良く実践に繋がられるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が困っている事を中心に支えられる様な、安心センターの活用等で問題が解決されるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内にある理容室や受診帰りに商店に寄って買い物を楽しむ、夜警に職員と参加し、町内の安全に楽しみを持って参加している。参加する事で、入居者間でも話に花が咲いている。楽しめる様支援したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある方は、入居されてからもそのまま利用され、無い方には協力医療機関を提示して、適切に医療を受けて頂けるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内Nsが在籍しており、日ごろの入居者の健康管理に関して職員との情報共有が出来る様、不在時でも連絡が取れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年に入院された方はいっしょになかったが、本人が入院されている関係者の方から状況を伺い、職員間でも情報共有を行い、ご家族にも連絡を入れ、退院時にはスムーズな対応が出来る様、ケアマネジャー・施設内Nsを中心に支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関するご家族の考えや希望を書面にて確認後、施設ができる支援を説明・同意を得ており、その方に沿った形で支援出来るようにしている。看取り介護になられた方の情報を勉強会の中にも取り入れ、全職員が共有できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変事故発生に備えて、応急手当初期対応についてNsを中心に内部研修を行い、マニュアルを作成している。転倒の事故に備え、ヒヤリハットや事故報告書での情報を基に対策を立てると共に緊急時対応できる知識を引き続き身につける事が十分に必要とされる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災訓練は年6回より毎月実施に変更され、今年度もコロナ禍の為地域住民の方や消防の方の参加は控えて頂いており、自主訓練を行っている。施設内の設備も防火対応の物を使用、禁煙としている。敷地内も禁煙としている。防災時の備蓄(食料品・水など)は専用のプレハブに備え、定期的に入れ替えを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックなど定期的な勉強会を行い、職員間での意識が薄れないように心掛けている。プライバシーの確保に十分注意し、記録物等個人情報の取り扱いを徹底するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定により行動出来る様働きかけたり、本人の理解できる能力に合わせながら説明を行っている。本人の思いや希望が通る様今後も支援を継続したい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースを大切にして支援をしている。体調やその日の気分に合わせて個別的・集団的対応が出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択可能な方は、起床時衣類を選んで頂き整容についても自身で行って頂いている。支援が必要な方には職員が介入している。ヘアカラー、マニキュア、ヘアカット等、希望する方には近隣の理容室へ職員同行する等し対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の準備や食器洗い拭きができる方は職員と共に行い、使用する食器も馴染みのあるものへ盛り付ける等工夫している。また誕生日ケーキの準備や月に一度のオヤツ作りも食事を楽しんでもらえるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が水分・食事量の把握を行い脱水予防、食欲不振時はし好品や補助食品を提供し栄養摂取や水分の確保の支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、援助が必要な方に対しての口腔ケアは介入し清潔保持に努めている。自分で出来る方は自分で行って頂いている。必要に応じ歯科医師に相談、往診や受診での処置を行って頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態を熟知した上で個々の排泄パターンに沿った支援を行っている。その際行動や言動に注意しながら声掛け・誘導をし、出来る限りパットに頼らない排泄支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、個々に合った対応や水分摂取に努め、適度な運動で排便を促すように支援している。内服薬の作用・副作用についても今以上に理解し、便秘予防改善に取り組んでいきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回以上入浴出来るようにしている。本人の希望やその日の状況・状態に合わせた入浴支援を行っている。一日の入浴者の数を少なくすることで、ゆっくり入浴されるよう心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は個々の睡眠パターンを理解し、安全に落ち着いて安眠出来る様配慮している。日中も希望・体調に合わせて、居室・畳コーナー・ソファ等で休息出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が把握し、確認出来る様に個人ファイルに保管している。内服薬は個々に用法・容量を掲示してあり、かかりつけ医等も記載してある。変更時はその都度ラインにて全職員への周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴・得意な事・やりたいことなどの思いを聞き取りながらレクリエーション・クラフト製作・ドライブ・外食・家事・買い物等の実施、生きがいのある充実した日々の生活を支援している。今後も継続したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で戸外に出かける機会が激減してはいるが、状況を見て本人の希望するものを職員と買いに行ったり、感染対策が十分になされた飲食店への外出を毎月行ったり、移動パン屋さんで購入を楽しんで頂けるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族の希望があれば、個人用の財布を作り現金(少額)を自身で持って頂けるよう支援をしている。外出、買い物時には可能な限り本人様に支払をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を利用して頂けるよう支援している。また、個人で電話を持っている方は好きな時にやり取りが行える様声掛けしながら管理をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節の飾りや、季節感を感じられるような工夫を行っている。また、加湿、空調等により居心地の良い空間を提供出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースでは気の合う方同士で過ごせる様、座席の配置を工夫している。フロアの畳コーナーにテレビがあり、テレビ前に座卓とソファを置き自由にゆっくりと過ごせる空間にし、思い思いの時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある物を持って入居され、自宅に近い雰囲気づくりに努めている。本人が使いやすいように、また安全に過ごせるようにベッドや家具の配置にも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目が不自由な方がおり、トイレや手すりには、赤いテープで目立つように工夫をしている。また、生活空間内に段差も多く、危険がある場所や階段では、言葉掛けと同行にて安全の確保に努める。		